

平成23年5月11日

学生の皆様へ

保健管理センター

麻しん（はしか）の増加について（注意喚起）

麻しん（はしか）は、例年、春から初夏にかけて流行します。

麻しんは、免疫を持たない人が麻しんウイルスに感染した場合に発症し、10-12日間の潜伏期間ののち発症し、39℃前後の高熱と全身に広がる赤い発疹を特徴とする全身疾患です。

（本学保健管理センターHP <http://www.tuat.ac.jp/~health/hashika.pdf>）

麻しんウイルスは非常に感染力が強く、空気感染、飛沫感染、接触感染により、学校などで集団感染を引き起こすことがあります。

発症した場合は、麻しんに特異的な治療薬は無いため、現在、ワクチン接種のみが唯一の有効な感染予防法とされています。

本学では、入学前の第4期定期接種対象者（高校3年生相当年齢）の方へ麻しんのワクチン接種を受けてから入学していただくよう、お願いしてまいりました。

「これまで麻しんにかかったことが無い」方、および「麻しん罹患歴が不明」の方のうち、以下の項目のいずれかに当てはまる方は医療機関でご相談の上、麻しんワクチン接種を受けていただきますよう、お願いいたします。

- ①麻しんワクチン接種が未接種の方
- ②麻しんワクチン1回のみ接種の方
- ③予防接種を受けたかどうか不明の方